

各 位

上場会社名 代表者 (コード番号 問合せ先責任者 (TEL	石垣食品株式会社 代表取締役社長 石垣 裕義 2901) 経理部経理課 課長 小西 一幸 03-3263-4444)
---	---

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成28年5月13日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成29年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 304	百万円 5	百万円 5	百万円 4	円 銭 1.34
今回修正予想(B)	240	△28	△30	△30	△8.94
増減額(B-A)	△64	△34	△35	△34	
増減率(%)	△21.2	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成28年3月期第2四半期)	254	△36	△35	△36	△10.63

平成29年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当社株主に帰属する当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 565	百万円 3	百万円 1	百万円 1	円 銭 0.48
今回修正予想(B)	485	△30	△31	△31	△9.43
増減額(B-A)	△79	△33	△33	△33	
増減率(%)	△14.2	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成28年3月期)	451	△83	△86	△170	△50.36

平成29年3月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 303	百万円 12	百万円 12	百万円 11	円 銭 3.45
今回修正予想(B)	239	△19	△21	△21	△6.37
増減額(B-A)	△63	△32	△33	△33	
増減率(%)	△21.0	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成28年3月期第2四半期)	253	△15	△16	△16	△4.81

平成29年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 563	百万円 10	百万円 9	百万円 8	円 銭 2.59
今回修正予想(B)	484	△21	△23	△23	△7.04
増減額(B-A)	△79	△31	△32	△32	
増減率(%)	△14.1	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成28年3月期)	449	△51	△52	△165	△48.73

修正の理由

麦茶製品については当初、猛暑を受けた大幅な増収を見込んでおり、限られた時期や店舗においては見込み通りの増収が見られたものの、全般的には台風の直撃など天候が不順気味であったこと、競合他社によって市場競争が更に過熱したこと、一部の大手食品スーパーマーケットチェーンでの取扱いが無くなつたことについて当初見込みよりも減収の影響が大きくなつたことから、むしろ減収となりました。

ビーフジャーキーについては、新商品を投入したOEM商品は大幅な増収となったものの、自社ブランド商品については、特に夏季においてリニューアルを行って増収となった昨年を更に上回る増収を見込んでいたところ、前期まで4年連続で行った値上げにより価格競争力が大幅に毀損されたこと、前期に行った商品の統廃合やリニューアルなどラインナップの再構築が失敗に終わったこと、塩レモン風味など新商品の投入が不発に終わったことなどから、むしろ逆に大幅な減収となつてしまつたため、ビーフジャーキー全体では微増に留まりました。

損益面においても、ビーフジャーキーについては円安傾向や原料牛肉価格高騰が一因したことから原材料コストの上昇には歯止めがかかったものの、見込んでいた増収による工場稼働率の上昇を得られなかつたことに加え、麦茶においても減収に伴う生産稼働率の低下が生じてしまつたことから、損益に悪影響を与えることとなりました。

以 上